

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論	担当者	木戸 裕子・竹本 寛秋		
	[履修年次] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義形式
	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，1. 古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し，変体仮名（くずし字）の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社 (担当者：木戸)			
	(2)	プリント (担当者：竹本)			
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。			
	第 2 回	古典文学を学ぶとは、仮名史について：くずし字の読み方1			
	第 3 回	文献学 (写本と板本)，書誌学について：くずし字の読み方2			
	第 4 回	古典の季節観と暦：くずし字の読み方3			
	第 5 回	古典文学研究の方法1：くずし字小テスト			
	第 6 回	古典文学研究の方法2：くずし字の読み方4			
	第 7 回	古典における比較文学 中国古典文学との関わり：くずし字の読み方5			
	第 8 回	総括1：前半のまとめ			
	第 9 回	近代文学を学ぶとは：文学理論について			
	第 10 回	「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて			
	第 11 回	「作者」とは何か：作者/作品/テキストについて			
	第 12 回	「語り」とは何か：ナラトロジーについて			
	第 13 回	「物語」とは何か：物語の構造について			
	第 14 回	論文の書き方			
	第 15 回	総括2：後半のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	授業で指示する課題など。				
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート (感想文等) 20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% 試験50% (竹本担当分はレポート50%) の合計で評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 音声学・音韻論 (1)：調音音声学、子音・母音 第 3回 音声学・音韻論 (2)：モーラ、音節① 第 4回 音声学・音韻論 (3)：モーラ、音節② 第 5回 音声学・音韻論 (4)：連濁、枝分かれ制約 第 6回 形態論 (1)：形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み 第 7回 形態論 (2)：新語、流行語 第 8回 意味論 (1)：単語の意味 第 9回 意味論 (2)：類義語と対義語 第 10回 語用論 (1)：発話行為論① 第 11回 語用論 (2)：発話行為論② 第 12回 語用論 (3)：発話機能と語学教育 第 13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14回 これまでの復習 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び宿題：50%、期末試験：50%			
実務経験について				

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年 (注)		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 日本語の各研究分野（音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、待遇表現、方言）について概観する。</p> <p>【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊坂淳一『新 ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。 第 2回 現代日本語の音声と音韻1：音声と音韻、音声器官、音声記号 第 3回 現代日本語の音声と音韻2：日本語の母音、母音の無声化、促音化 第 4回 現代日本語の音声と音韻3：日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動 第 5回 現代日本語の音声と音韻4：音素と異音、拍と音節、特殊音素 第 6回 現代日本語の音声と音韻5：アクセント、イントネーション 第 7回 文字・表記：日本語の表記の特色、漢字の構造・音と訓・送り仮名 第 8回 現代日本語の語彙と意味1：語彙、語彙量、語種 第 9回 現代日本語の語彙と意味2：語構成、語の意味、原義と転義 第 10回 現代日本語の文法1：形態論と統語論、文の分類、主語と述語、主題 第 11回 現代日本語の文法2：学校文法とその限界、動詞の活用、自動詞・他動詞 第 12回 現代日本語の文法3：ヴォイス、テンス、アスペクト 第 13回 現代日本語の文法4：モダリティ、複文、授受表現 第 14回 現代日本語の待遇表現：待遇行動、待遇表現の種類、敬語 第 15回 現代日本語の方言：言語変種、社会方言と地域方言、言語変化</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。			
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート等持ち込み可) の成績 (60%)、小テストの成績 (40%)			
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。			

(注) 教職必修 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。
なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第6回 教材分析</p> <p>第7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第8回 教授法②：授業見学</p> <p>第9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第14回 模擬授業の準備</p> <p>第15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%、期末レポート：50%							
実務経験について								

授業科目	日本語史		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴を理解した上で、現代日本語の成立に至る過程を説明することができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 時代区分と資料：日本語の範囲、日本語の資料、日本語史の時代区分</p> <p>第2回 奈良時代までの日本語1：漢字の伝来、万葉仮名、上代特殊仮名遣い、頭音法則</p> <p>第3回 奈良時代までの日本語2：動詞の活用成立、形容詞・代名詞の整備、和語と漢語</p> <p>第4回 平安時代の日本語1：和文と漢文訓読文、平仮名・片仮名の誕生、いろは歌と五十音図</p> <p>第5回 平安時代の日本語2：音韻の混同（ハ行転呼音）、声調の表示、下一段活用の成立、ナリ活用とタリ活用</p> <p>第6回 平安時代の日本語3：音便と表記、代名詞、助動詞と助詞、漢語の日本語化</p> <p>第7回 鎌倉時代の日本語1：和漢混淆文、直音と拗音、開合、連声</p> <p>第8回 鎌倉時代の日本語2：終止形と連体形の合一化、ラ変と形容詞の活用変化、係り結びの崩壊</p> <p>第9回 鎌倉時代の日本語3：二段活用の一役化、コソアド体系の整備、助動詞類の変化、漢語の普及と意味変化</p> <p>第10回 室町時代の日本語1：天草本『伊曾保物語』、アクセントの変化、外来語の発達</p> <p>第11回 室町時代の日本語2：近代語法への変容、尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第12回 江戸時代の日本語1：上方語と江戸語、四つ仮名の区別の消滅、合拗音の直音化、漢語の多用、当て字</p> <p>第13回 江戸時代の日本語2：近代語法の確立、複合辞の増加、敬語表現の細分化</p> <p>第14回 明治以降の日本語：言文一致、現代表記の確立、漢語の急増、外来語の使用</p> <p>第15回 日本語学史</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通して頂くこと。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書・配布資料等持ち込み可）の成績（60%）、随時実施する小テストの成績（40%）							
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「日本語の歴史」の教授経験あり。							

(注) 日本語日本文学専攻の学生は、1年次 必修科目かつ教職必修。

授業科目	日本文法論		担当者	小亀 拓也			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身の回りの日本語の中にひそむ、さまざまな文法現象の「不思議」について考察する。</p> <p>【概要】 「風もないのに、木の葉がはらはらと散る」「風はないのに、木の葉がはらはらと散る」——どちらも同じ事柄を表していると言えそうであるが、一方で、その文が表す意味には微妙な差異も感じられる。これらの助詞は、何が同じで何が違うのか。この講義では、上記のような、普段特に意識されることはないが、改めて考えてみると不思議な文法現象について考察する。</p> <p>【到達目標】受講生自身が、身の回りの日本語の不思議な現象に気づき、記述・分析できるようになる。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 1年次に「日本語学概論」で使用した教科書を持参すること。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：「4色ボールペン、北京でありましたよ」</p> <p>第2回 助詞「か」の多義：「ん、何かあったのか?」「なんだ、非常ベルの誤作動か」</p> <p>第3回 助詞「も」の多義：「私もその怪談話、聞いたことある」「怖くて夜も寝られない」</p> <p>第4回 助詞「は」の多義：「私、お酒は飲めないの」「クジラは哺乳動物である」</p> <p>第5回 助詞「か」「も」「は」のまとめ</p> <p>第6回 助詞「が」の用法：「机の上に本がある」「鳥が飛んでいる」「水が飲みたい」「納豆が食べられない」</p> <p>第7回 「は」と「が」1：「恋人(は/が) サンタクロース」「十円玉(は/が/φ)ある?」</p> <p>第8回 「は」と「が」2：「は」と「が」の位置関係と使い分け</p> <p>第9回 動詞シタ形が多義：「先週、沖縄へ行った」「あ、スマホの画面が割れた」「あ、こんなところにあった!」</p> <p>第10回 動詞シテイル形が多義：「鳥が飛んでいる」「ガラスが割れている」「森の向こうに富士山が見えている」</p> <p>第11回 「た」と「ている」：「織田信長は1582年に(死んだ/死んでいる)」「(濁った/濁っている)水」</p> <p>第12回 動詞スル形が多義：「明日はきっと雪が降る」「僕、一人で帰る!」「さっさと歩く!」</p> <p>第13回 動詞ショウ形が多義：「この中にはその話を聞いた人もあろう」「よし、勉強しよう」「一緒に勉強しよう」</p> <p>第14回 現代日本語の叙法組織：動詞スル形、動詞ショウ形、動詞シタ形、動詞シテイル形</p> <p>第15回 まとめ 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>						
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。						
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート等持ち込み可)の成績(70%)、小テストの成績(30%)						
実務経験について	KEC日本語学院にて、「文法」の教授経験あり。						

授業科目	日本語学講義		担当者	小亀 拓也			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]
授業科目	<p>【テーマ】1年次に「日本語学概論」で扱った諸問題について、より専門的な見地から分析・考察する。</p> <p>また「日本語学概論」で扱わなかった内容についても検討し、より広範な日本語学的知識を獲得する。</p> <p>【概要】日本語学の諸分野(音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など)の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。</p> <p>【概要】日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 世界の言語における「日本語」の位置づけ</p> <p>第2回 音の作り方1：母音と子音、アクセント、リズム、イントネーション</p> <p>第3回 音の作り方2：単音と音素、弁別的素性、音素配列論</p> <p>第4回 単語の仕組み：形態素、語根と接辞、複合と派生、逆成、縮約、異分析</p> <p>第5回 意味の世界1：同音語と多義語、メタファー、メトニミー、シネクドキー</p> <p>第6回 意味の世界2：同義語と類義語、対義語、レトロニム、カテゴリーとプロトタイプ</p> <p>第7回 文の構造：構成素、樹形図、人称・性・数・格、冠詞</p> <p>第8回 文の意味：文法カテゴリー(態、時、相、法)</p> <p>第9回 談話の仕組み：文脈、直示、一貫性、結束性</p> <p>第10回 会話の仕組み：発話行為、協調の原理、格率、会話分析</p> <p>第11回 言語と変異：変異、地域方言、社会方言、多言語使用</p> <p>第12回 言語と変化：言語接触、言語政策、言語計画</p> <p>第13回 文の理解：構文解析、あいまい文、袋小路文、眼球運動</p> <p>第14回 文の産出：言い間違い、語彙化、レンマ、舌先現象、プライミング</p> <p>第15回 まとめ 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>						
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。						
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート等持ち込み可)の成績(70%)、小テストの成績及び授業での発言内容(30%)						
実務経験について	KEC日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」「言語と心理」の教授経験あり。						

授業科目	日本語学講読Ⅰ		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。</p> <p>【概要】 「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか、具体的にはどのような現象を対象とするのか、観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか、といったことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 普段何気なく使用している「日本語」という言語について、客観的に眺めることができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 導入：辞書、単語、普通名詞、固有名詞</p> <p>第2回 意味1：2つのカテゴリー観について</p> <p>第3回 意味2：意味の拡張、同音異義と多義</p> <p>第4回 意味3：比喻（直喩・隠喩・換喩・提喩）</p> <p>第5回 意味4：「意義・言葉・経験」（渡辺実）</p> <p>第6回 意味5：日本語の助詞・助動詞の多義</p> <p>第7回 日本語と他言語との比較（言語類型論）</p> <p>第8回 音声と文字：文字と標記の不一致、長音</p> <p>第9回 音声と書記：音の変化、語順、繰り返し</p> <p>第10回 あいまい文：意味理解、係り受け、省略</p> <p>第11回 話し言葉と書き言葉1：話し言葉の特徴</p> <p>第12回 話し言葉と書き言葉2：書き言葉の特徴</p> <p>第13回 コミュニケーションの失敗：会話の意図</p> <p>第14回 スタイルの違い：普通体と丁寧体、混淆</p> <p>第15回 まとめ</p> <p style="text-align: right;">以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%）、小テストの成績（30%）				
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。				

授業科目	日本語学講読Ⅱ		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
授業科目	<p>【テーマ】日本語の方言（学）に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。</p> <p>【概要】日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらおう。</p> <p>【到達目標】方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p> <p>方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明</p> <p>第2回 方言の区画と東西差、方言圏論</p> <p>第3回 発音・アクセント・イントネーションの地域差①</p> <p>第4回 発音・アクセント・イントネーションの地域差②</p> <p>第5回 アスペクト・条件表現の地域差</p> <p>第6回 オノマトペ・あいさつの地域差</p> <p>第7回 研究発表準備</p> <p>第8回 研究発表</p> <p>第9回 話の進め方・コミュニケーション意識の地域差</p> <p>第10回 敬語表現・卑罵表現の地域差</p> <p>第11回 共通語化の進行、方言と共通語の使い分け</p> <p>第12回 方言に対する受け止め方の変化、方言コンプレックス、方言プレステージ</p> <p>第13回 リアル方言とヴァーチャル方言、方言コスプレ</p> <p>第14回 研究発表準備</p> <p>第15回 研究発表</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）と研究発表の成績（70%）、小テストの成績（30%）				
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「言語と社会」の教授経験あり。				

授業科目	日本語学演習Ⅰ・Ⅲ		担当者	小亀 拓也			
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>						
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を説明、担当者を決める。</p> <p>第 2回 導入：教師による発表</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。						
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)						
実務経験について	なし						

授業科目	日本語学演習Ⅱ		担当者	小亀 拓也			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する研究の方法、および論文作成の方法を身につける。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。適切にレポートを書くことができる。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>						
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を確認、担当者を決める。</p> <p>第 2回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。						
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)						
実務経験について	なし						

授業科目	日本語学演習Ⅳ, Ⅵ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 演習Ⅳは1年, 演習Ⅵは2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第2回 語用論、社会言語学の分野の研究について 第3回 配慮を考えるとときの視点①(2年生担当) 第4回 配慮を考えるとときの視点②(2年生担当) 第5回 配慮を考えるとときの視点③(2年生担当) 第6回 日本語の配慮の多面性①(1年生担当) 第7回 日本語の配慮の多面性②(1年生担当) 第8回 卒論中間報告(2年生) 第9回 役割語①(2年生担当) 第10回 役割語②(2年生担当) 第11回 談話分析(1年生) 第12回 会話分析(1年生) 第13回 卒論計画発表(1年生) 第14回 卒論発表練習(2年生) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価、期末レポート：50%		
実務経験について			

授業科目	日本語学演習Ⅴ	担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論、社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め、論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める、簡単な学術的レポートが作成できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第2回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第3回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第4回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第5回 レポート作成指導① 第6回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第7回 レポート作成指導② 第8回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第9回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第10回 レポート作成指導③ 第11回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第12回 レポート作成指導④ 第13回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第14回 レポートに基づく口頭発表 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	期末レポート：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		
実務経験について			

授業科目	日本語表現法		担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば (特に文章表現) によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 発表、論文、エッセーなどの課題にグループで取り組みながら、ことば (特に文章表現) によって事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を身につける。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。この授業は演習方式であるが、実際には後期の日本語表現法演習と一体のものとして進めていくので、演習的な内容も織り込んでいく。その意味で、後期の日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 簡単な口頭発表ができる。また、原稿用紙を適切に使ってレポートを書くことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：自己紹介 第 2回 絵をことばに変える、ことばを絵に変える (図、空間、地図) 第 3回 情報収集の方法：辞典・事典類の活用法、図書館の利用法 第 4回 ネット利用：ドメイン、電子メール利用、リンク集作成 第 5回 調査方法：論文を調べる、新聞を調べる、引用・書誌情報 第 6回 調査開始：班分け発表、リーダー選出、図書館・ネット調査 第 7回 調査実施：課題についての調査続行、中間報告 第 8回 中間発表：口頭発表と質疑応答 第 9回 図表：統計などの数字の扱い、図表の読み方と説明の仕方 第 10回 レポート：文章表現の基本 (文体、表記、原稿の使い方) 第 11回 レポート：文章を書く技法 (パラグラフライティング、推敲) 第 12回 レポート：電子ツールを用いた文書作成法 (マッピング、アウトラインプロセッサ、編集) 第 13回 レポート：わかりやすく書く技法 第 14回 レポート：提出 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課す。また、毎授業冒頭に小テストを行う。			
成績評価の方法	レポート (40%) + 小テスト (30%) + 課題 (30%)			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習		担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば (音声言語および文章表現) によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】 前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成、および口頭発表を行ってもらう。この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 プレゼンテーションの基本 (目的と態度) 第 2回 スライドのデザインと制作1 第 3回 スライドのデザインと制作2 第 4回 プレゼンテーション実践 第 5回 課題レポート1：作成 第 6回 課題レポート1：発表 第 7回 課題レポート1：討論 第 8回 課題レポート2：作成 第 9回 課題レポート2：発表 第 10回 課題レポート2：討論 第 11回 課題レポート3：作成 第 12回 課題レポート3：発表 第 13回 課題レポート3：討論 第 14回 試験レポート：資料収集 第 15回 試験レポート：テーマに関する討論</p>			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査、図書館調査、レポート作成など、毎回授業の中で指示する。なお、毎授業冒頭に小テストを行う。			
成績評価の方法	成果資料 (レポート、PPT) の出来 (50%) + 小テスト (30%) + グループ討論や発表等の授業中の発言・コメント (20%)			
実務経験について	なし			

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第13回 発表準備 第14回 学生による発表 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%、レポート：40%			
実務経験について				

授業科目	日本文学講義 I		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】女性と漢文学—一条朝を中心として—</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」といい、自分自身は漢字の一字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。果たして平安朝の女性にとって漢詩文とはどういう存在だったのか、紫式部以外の一条朝の女性について考える。</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。平安時代の女性の生き方を考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：平安時代の漢詩文 第 2回 女性と漢詩文：一条朝以前 第 3回 紫式部の場合：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」 第 4回 清少納言の場合：『枕草子』1 「香炉峰の雪は」 第 5回 紫式部の場合：『源氏物語』「長恨歌と諷諭詩」 第 6回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌1 第 7回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌2 「法華経和歌」 第 8回 選子内親王？：『発心和歌集』1 第 9回 選子内親王？：『発心和歌集』2 第10回 一条朝後の物語：『浜松中納言物語』平安人が想像した唐 第11回 一条朝後の物語：『唐物語』 故事と物語 1 第12回 一条朝後の物語：『唐物語』 故事と物語 2 第13回 和歌と漢詩：題を詠むということ 第14回 女性と漢詩文：一条朝以後 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する			
成績評価の方法	授業の感想ミニレポート（毎回）20% レポート80%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅰ		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『萬葉集』巻十三、十四の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『萬葉集』の中でも、巻十三は他とは違って長歌を中心に雑歌、相聞、挽歌の三大部立てに添って並べられているのが特徴的な巻である。また、巻十四は東国地方に伝わる歌、すなわち東歌を集めたこれも特異な巻である。この二巻の作品を読むことで、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。東歌についてその特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊藤博『萬葉集積注(七)』集英社文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 『萬葉集』について(編者、諸本、万葉仮名など)</p> <p>第2回 巻十三、巻十四について。教員による模範演習</p> <p>第3回 『萬葉集』巻十三輪読その1:雑歌1</p> <p>第4回 その2:雑歌2</p> <p>第5回 その3:相聞1</p> <p>第6回 その4:相聞2</p> <p>第7回 その5:問答歌</p> <p>第8回 その6:挽歌1</p> <p>第9回 その6:挽歌2</p> <p>第10回 その7:挽歌3</p> <p>第11回 巻十四輪読 その1:雑歌</p> <p>第12回 その2:相聞1</p> <p>第13回 その3:相聞2</p> <p>第14回 その4:防人歌</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『萬葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。			
成績評価の方法	輪読担当60%、レポート40%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅱ		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名(くずし字)の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本(写真版)を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『辞典かな』笠間書院</p> <p>(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに:『伊勢物語』について(書名、主人公など)</p> <p>第2回 初段1:昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 初段2:和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 三段:二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 四段:二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 五段:二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第7回 六段1:二条後の物語その4</p> <p>第8回 六段2:二条の後の物語その5</p> <p>第9回 七・八段:東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1:東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2:東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1:伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2:伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段:男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。			
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読 III		担当者	木戸裕子	
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む</p> <p>【概要】講読IIIでは毎年『源氏物語』の一巻を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「夕顔」を読む。夕顔は帚木巻の「雨夜の品定め」で頭中将が語った「内気な女」である。今は五条の下町に暮らす女君は、偶然のいたずらで光源氏と出会い、数奇な運命をたどることになる。若き日の源氏のエゴイズムと夕顔の葛藤に注目して読み進めていく。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。</p>				
(1)テキスト	(1) 増田 繁夫 編『首書 源氏物語 夕顔』和泉書院				
(2)参考文献	(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 夕顔』至文堂				
授業スケジュール	第 1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について 第 2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について 第 3回 「夕顔」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。 第 4回 「夕顔」輪読：その1 担当の役割説明 第 5回 「夕顔」輪読：その2 第 6回 「夕顔」輪読：その4 第 7回 「夕顔」輪読：その5 第 8回 補足説明：紫式部と「夕顔」 第 9回 「夕顔」輪読：その1 第10回 「夕顔」輪読：その2 第11回 「夕顔」輪読：その3 第12回 「夕顔」輪読：その4 第13回 「夕顔」輪読：その5 第14回 「夕顔」輪読：その6 第15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学演習 I、III		担当者	木戸裕子	
	〔履修年次〕	1, 2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。</p> <p>あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Iと2年生の日本文学演習IIIを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習IIと同じく『篁物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>				
(1)テキスト	(1) プリント、『辞典かな』				
(2)参考文献	(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院				
授業スケジュール	第 1回 2年生によるオリエンテーション：篁物語について 第 2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第 3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習 第 4回 グループワーク3：翻字と解釈の実習その2 第 5回 篁物語を読む：2 第 6回 篁物語を読む：3 第 7回 篁物語を読む：4 第 8回 篁物語を読む：5 第 9回 篁物語を読む：6 第10回 篁物語を読む：7 第11回 篁物語を読む：8 第12回 篁物語を読む：9 第13回 篁物語を読む：10 第14回 篁物語を読む：11 第15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	日本文学演習I 担当時外発言 20% レポート 80% 日本文学演習III 担当時外発言 20% 担当発表 80%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学演習Ⅱ		担当者	木戸裕子			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『篁物語（たかむらものがたり）』を読む。篁物語は平安初期に実在した文人・官僚であった小野篁を主人公とした歌物語で、『小野篁集』の題で私家集として扱われることもある。篁と妹をめぐる物語を読み中で、平安時代における、物語と家集の関係を考えるとともに、平安時代の貴族の生活と文化について知見を深めたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>						
(1)テキスト	(1) プリント、『字源かな』						
(2)参考文献	(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院						
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認 第2回 篁物語について： 第3回 篁物語を読む：1 第4回 篁物語を読む：2 第5回 篁物語を読む：3 第6回 篁物語を読む：4 第7回 篁物語を読む：5 第8回 篁物語を読む：6 第9回 篁物語を読む：7 第10回 篁物語を読む：8 第11回 篁物語を読む：9 第12回 篁物語を読む：10 第13回 篁物語を読む：11 第14回 篁物語を読む：12 第15回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備						
成績評価の方法	担当発表 80%、担当時以外の発言(質問、意見など) 20%						
実務経験について	なし						

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ		担当者	竹本 寛秋			
	〔履修年次〕	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	必修(注)	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、明治期の歴史の変遷を理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>「日本文学史・近代Ⅰ」では、主に明治期の文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>						
(1)テキスト	(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』(中公選書)						
(2)参考文献	(2) 適宜、授業中に紹介する。						
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か 第2回 概論：「近代」とは何か 一夏目漱石、森鷗外、北村透谷一 第3回 概論：「小説」概念の成立 一坪内逍遙一 第4回 明治の文学1：近世と近代文学 一戯作、漢文体、翻訳小説、政治小説一 第5回 明治の文学2：「国語」と近代文学 一速記、表記の改革、文体の改革一 第6回 明治の文学3：詩歌の改良 一新体詩の出現一 第7回 明治の文学4：言文一致小説 一二葉亭四迷一 第8回 明治の文学5：写実主義と写生(1) 一尾崎紅葉、硯友社の文学一 第9回 明治の文学6：写実主義と写生(2) 一正岡子規一 第10回 明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌 一森鷗外、島崎藤村一 第11回 明治の文学8：自然主義の小説(1) 一島崎藤村一 第12回 明治の文学9：自然主義の小説(2) 一田山花袋一 第13回 明治の文学10：反自然主義の小説 一夏目漱石一 第14回 明治の文学11：口語自由詩 一川路柳虹、相馬御風一 第15回 まとめ						
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容(30%)、筆記試験(70%)						
実務経験について	なし						

注) 教職必修

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 1, 2年共通	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 後期 (単位) 2	〔必修/選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕 講義方式
授業科目	<p>【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代までの変遷を理解する。</p> <p>【概要】「日本文学史・近代」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』(中公選書)</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 ―メディアの変革と「文学」―</p> <p>第 2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 ―白樺派、新思潮派―</p> <p>第 3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立</p> <p>第 4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩</p> <p>第 5回 昭和の文学2：主知主義文学</p> <p>第 6回 昭和の文学3：プロレタリア文学</p> <p>第 7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 ―転向文学、日本浪漫派、四季派―</p> <p>第 8回 昭和の文学5：戦争と文学</p> <p>第 9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 ―戦後文学の出發―</p> <p>第 10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 ―第三の新人の登場―</p> <p>第 11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 ―三島由紀夫の死―</p> <p>第 12回 昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学 ―村上龍、村上春樹―</p> <p>第 13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 ―塚本邦雄、岡井隆、寺山修司―</p> <p>第 14回 現代の文学：現代文学のゆくえ</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容 (30%)、筆記試験 (70%)		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 前期 (単位) 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代の詩を読む</p> <p>【概要】</p> <p>今、日本で一般に「詩」と呼ばれるものは、明治以降、日本の西洋化とともに作られた、比較的新しいジャンルです。日本近現代の詩の歴史を、実際の作品を読み解きながら振り返り、多様な日本の「詩」の世界を考えます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 大岡信『蕩児の家系―日本現代詩の歩み』(思潮社)、他授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の詩を読むために</p> <p>第 2回 北村透谷『楚囚之詩』</p> <p>第 3回 島崎藤村『若菜集』</p> <p>第 4回 薄田泣菫『白羊宮』</p> <p>第 5回 高村光太郎『道程』</p> <p>第 6回 高村光太郎『道程』</p> <p>第 7回 萩原朔太郎『月に吠える』</p> <p>第 8回 萩原朔太郎『水島』</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 大手拓次『藍色の墓』</p> <p>第 11回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第 12回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第 13回 中原中也『山羊の歌』</p> <p>第 14回 中原中也『山羊の歌』</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)		
実務経験について	なし		

授業科目	日本文学講読Ⅳ		担当者	丹羽謙治
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近世遊里と文学</p> <p>情報や流行の発信源であった遊里を舞台にした文学について考える。</p> <p>【概要】本授業では江戸時代の遊里を舞台とした複数の文学作品を取り上げながら、近世文学が遊女を通して描いたものについて考察する。取り上げる作品は井原西鶴『好色一代男』『好色一代女』、江島其磧『けいせい色三味線』などである。</p> <p>【到達目標】江戸時代の風俗や制度・習慣、美意識などについて正しい認識をもつ。</p> <p>時代を見るとき相対的な観点に立つことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 新編日本古典文学全集『井原西鶴集 一』（小学館）その他は授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 導入 文学史における時代区分</p> <p>第2回 近世文学・近世文学の特質について</p> <p>第3回 古代・中世における遊女と文学</p> <p>第4回 近世における遊郭成立</p> <p>第5回 『好色一代男』の成立 一巻の一―</p> <p>第6回 『好色一代男』一巻六の二―</p> <p>第7回 『好色一代女』一巻の一―</p> <p>第8回 『好色一代女』一巻二の三―</p> <p>第9回 『好色五人女』巻二</p> <p>第10回 『けいせい色三味線』の世界</p> <p>第11回 江戸の遊郭吉原の構造</p> <p>第12回 洒落本『遊子方言』（一）</p> <p>第13回 洒落本『遊子方言』（二）</p> <p>第14回 洒落本『傾城買四十八手』（一）</p> <p>第15回 洒落本『傾城買四十八手』（二）</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。			
成績評価の方法	期末試験			
実務経験について	該当なし			

授業科目	日本文学講読Ⅴ		担当者	丹羽謙治
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】浄瑠璃の世界：『仮名手本忠臣蔵』の世界</p> <p>後世に大きな影響を与えた赤穂事件に取材した芝居の集大成を読む</p> <p>【概要】元禄14年～16年（1701～03）の『赤穂事件』に取材した浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』（寛延元年（1748）初演）を読み、進め、一部動画の鑑賞しながら、芝居における趣向、歌舞伎と浄瑠璃との演出の違いなどについて考察する。</p> <p>【到達目標】赤穂事件を取り込んだ文学作品の鑑賞を通して江戸の人々の感性や思考法を把握する。</p> <p>歌舞伎、浄瑠璃に関する知識を得る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 浄瑠璃集』（新潮古典文学集成、1985年）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 赤穂事件について</p> <p>第2回 『仮名手本忠臣蔵』の成立</p> <p>第3回 『仮名手本忠臣蔵』大序</p> <p>第4回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（進物場）</p> <p>第5回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（刃傷場）</p> <p>第6回 『仮名手本忠臣蔵』五段目</p> <p>第7回 『仮名手本忠臣蔵』六段目</p> <p>第8回 浄瑠璃と歌舞伎</p> <p>第9回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（1）</p> <p>第10回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（2）</p> <p>第11回 『仮名手本忠臣蔵』八～十段目</p> <p>第12回 『仮名手本忠臣蔵』十一段目（討ち入り）</p> <p>第13回 戯作と『忠臣蔵』（1）上方絵本</p> <p>第14回 戯作と『忠臣蔵』（2）江戸戯作</p> <p>第15回 鹿兒島と赤穂事件</p>			
授業外学習(予習・復習)	テキストを読んでおく（予習）、授業後資料やテキストを読んで授業内容を確認する。			
成績評価の方法	期末試験			
実務経験について	該当なし			

授業科目	日本文学講読Ⅵ		担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する</p> <p>【概要】 日本近代の詩、短歌、小説を、様々な観点から読み解く。小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、テキストについて根拠を持って検討できるようになるとともに、現代を対象化する視点を身につける。 ※対象とする小説作品は変更の可能性ある。</p> <p>【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。 テキストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 3回 結核の時代と文学</p> <p>第 4回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 5回 科学技術と文学</p> <p>第 6回 有島武郎「カインの末裔」</p> <p>第 7回 日本の国境と日本文学</p> <p>第 8回 前半のまとめ</p> <p>第 9回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第10回 心理学と文学</p> <p>第11回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第12回 原稿、草稿と文学</p> <p>第13回 太宰治「道化の華」</p> <p>第14回 「語り」からテキストを読み解く</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。			
成績評価の方法	毎回のミニレポート (40%)、レポート (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅶ		担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 小説を分析するための様々な方法論について学ぶ</p> <p>【概要】 文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても、客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が、様々な蓄積されてきた。それらの方法論を学び、様々な文学テキストに応用することで、素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し、客観的、論理的に考察し、文章として表現する能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 文学研究に必要となる、テキスト読解の方法を実践できる。 テキストを基にした妥当な読みを提示し、客観的、論理的な考察のもとに、報告にまとめることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い</p> <p>第 2回 志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テキスト・焦点化</p> <p>第 3回 夢野久作「瓶詰地獄」：テキストの「空白」</p> <p>第 4回 太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り</p> <p>第 5回 中島敦「文字禍」：テキストと時代背景</p> <p>第 6回 井伏鱒二「朽助のゐる谷間」：本文校異</p> <p>第 7回 川端康成「水月」：三人称の語り</p> <p>第 8回 有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史</p> <p>第 9回 川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題</p> <p>第10回 久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵</p> <p>第11回 堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題</p> <p>第12回 倉田由美子「暗い旅」：論争について</p> <p>第13回 資料調査について</p> <p>第14回 文学史について</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。			
成績評価の方法	毎回のミニレポートと授業内での活動 (40%)、レポート (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学演習Ⅳ, Ⅵ		担当者	竹本 寛秋				
	〔履修年次〕	1, 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】</p> <p>明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定</p> <p>第 2 回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について</p> <p>第 3 回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について</p> <p>第 4 回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5 回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6 回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7 回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8 回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9 回 前半のまとめ</p> <p>第 10 回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11 回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12 回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13 回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14 回 口頭発表 (10)</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表等 (70%), 討議での発言・参加 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学演習Ⅴ		担当者	竹本 寛秋				
	〔履修年次〕	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近現代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】</p> <p>明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 斎藤理生他編『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、研究論文を作成する意義</p> <p>第 2 回 対象となる作品の決定、文学理論について</p> <p>第 3 回 発表資料の作成、発表の方法、ディスカッションの方法について</p> <p>第 4 回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5 回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6 回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7 回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8 回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9 回 前半のまとめ</p> <p>第 10 回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11 回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12 回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13 回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14 回 論文作成の方法について</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表、ディスカッションでの発言 (40%), レポート (60%)							
実務経験について	なし							

授業科目	南九州の文学	担当者	三嶽 公子
	[履修年次] 1, 2年生 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	質問、個人指導、いつでも対応します。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 南九州（鹿児島県 熊本県 宮崎県）を舞台とした文学作品を読むことで、土地と人間の深いかかわりについて学ぶ。そのうえで、地域や人を大切にすることを学ぶ。</p> <p>【概要】 南九州を舞台とした文学作品を丁寧に読みつつ、自然災害や戦争、廃仏毀釈などの破壊からいかに再生していくかを辿る。</p> <p>【到達目標】 南九州という土地のもつ再生力を知る。エネルギーの高い土地のパワーを感じ、希望をもって生きることにつなげる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に関連資料を配布する</p> <p>(2) 「みたけきみこと読むかごしまの文学」(K&Yカンパニー)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 南九州全体を見渡す 「やさしさかごしま」(作詞・岡田哲也)「鹿児島県民の歌」の解説</p> <p>第 2回 与論島 森葉子「アイランド」</p> <p>第 3回 沖永良部島 一色次郎「青幻記」</p> <p>第 4回 奄美 島尾敏雄「島の果て」</p> <p>第 5回 屋久島文学散歩 椋嶋十「片耳の大鹿」 山尾三省「アニミズムという希望」 林芙美子「浮雲」</p> <p>第 6回 桜島文学散歩 なぎさ遊歩道句碑巡り</p> <p>第 7回 坊津 梅崎春生「幻化」</p> <p>第 8回 向田邦子「細長い海」</p> <p>第 9回 紫尾山 梨木香歩「海うそ」</p> <p>第 10回 伊佐 海音寺潮五郎「二本の銀杏」</p> <p>第 11回 鹿屋 川端康成「生命の樹」</p> <p>第 12回 志布志 種田山頭火の俳句</p> <p>第 13回 熊本 水俣 石牟礼道子「苦海浄土」</p> <p>第 14回 宮崎 若山牧水の短歌</p> <p>第 15回 まとめ レポートの書き方についての指導</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中に配るプリント類に基づいて、取り上げた作品、またその関連資料を読むこと。授業で取り上げるのは作品の一部なので、その作品を全部読む。		
成績評価の方法	授業中に行う小テスト＋期末レポート		
実務経験について	NPO法人月の舟自由大学・学長として現在活動中。		

授業科目	中国文学史 I	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メールで事前連絡すること
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国文学史</p> <p>【概要】 中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】 中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第 10回 諸子 (3)</p> <p>第 11回 辞賦 (1)</p> <p>第 12回 辞賦 (2)</p> <p>第 13回 辞賦 (3)</p> <p>第 14回 辞賦 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		
実務経験について	なし		

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 必修
			〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 楽府 (1)</p> <p>第2回 楽府 (2)</p> <p>第3回 楽府 (3)</p> <p>第4回 五言詩 (1)</p> <p>第5回 五言詩 (2)</p> <p>第6回 五言詩 (3)</p> <p>第7回 志怪小説 (1)</p> <p>第8回 志怪小説 (2)</p> <p>第9回 志怪小説 (3)</p> <p>第10回 近体詩 (1)</p> <p>第11回 近体詩 (2)</p> <p>第12回 近体詩 (3)</p> <p>第13回 伝奇 (1)</p> <p>第14回 伝奇 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		
実務経験について	なし		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択 (注)
			〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文(白文)を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 基本文型 (1)</p> <p>第3回 基本文型 (2)</p> <p>第4回 基本文型 (3)</p> <p>第5回 基本文型 (4)</p> <p>第6回 基本文型 (5)</p> <p>第7回 基本文型 (6)</p> <p>第8回 副詞</p> <p>第9回 基本文型の連続</p> <p>第10回 フレーズ (1)</p> <p>第11回 フレーズ (2)</p> <p>第12回 フレーズ (3)</p> <p>第13回 フレーズ (4)</p> <p>第14回 フレーズ (5)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ		担当者	土肥 克己			
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールで事前連絡すること			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)						
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 漢字 (1) 第3回 漢字 (2) 第4回 漢字 (3) 第5回 漢字 (4) 第6回 漢字 (5) 第7回 漢文 (1) 第8回 漢文 (2) 第9回 漢文 (3) 第10回 漢文学 (1) 第11回 漢文学 (2) 第12回 中国文学 (1) 第13回 中国文学 (2) 第14回 中国文学 (3) 第15回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。						
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%						
実務経験について	なし						

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ		担当者	土肥 克己			
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールで事前連絡すること			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 [授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)						
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 講読 (1) 第3回 講読 (2) 第4回 講読 (3) 第5回 講読 (4) 第6回 講読 (5) 第7回 講読 (6) 第8回 講読 (7) 第9回 講読 (8) 第10回 講読 (9) 第11回 講読 (10) 第12回 講読 (11) 第13回 講読 (12) 第14回 講読 (13) 第15回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。						
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。						
実務経験について	なし						

授業科目	中国文学演習Ⅱ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島島の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 文献調査の基礎 (1)</p> <p>第 3回 文献調査の基礎 (2)</p> <p>第 4回 論文の読み方</p> <p>第 5回 石碑調査 (1)</p> <p>第 6回 石碑調査 (2)</p> <p>第 7回 石碑調査 (3)</p> <p>第 8回 石碑調査 (4)</p> <p>第 9回 石碑調査 (5)</p> <p>第10回 プレゼン練習 (1)</p> <p>第11回 プレゼン練習 (2)</p> <p>第12回 プレゼン練習 (3)</p> <p>第13回 プレゼン練習 (4)</p> <p>第14回 プレゼン練習 (5)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。			
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学演習Ⅲ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 論文整理と発表 (1)</p> <p>第 3回 論文整理と発表 (2)</p> <p>第 4回 論文整理と発表 (3)</p> <p>第 5回 論文整理と発表 (4)</p> <p>第 6回 論文整理と発表 (5)</p> <p>第 7回 論文整理と発表 (6)</p> <p>第 8回 論文整理と発表 (7)</p> <p>第 9回 論文整理と発表 (8)</p> <p>第10回 論文整理と発表 (9)</p> <p>第11回 論文整理と発表 (10)</p> <p>第12回 論文整理と発表 (11)</p> <p>第13回 論文整理と発表 (12)</p> <p>第14回 論文整理と発表 (13)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。			
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究Ⅰ、Ⅱ		担当者	専攻教員全員				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応					
	〔学期〕	前期、後期	〔単位〕	各1	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)							
授業スケジュール	第1回	I	オリエンテーション：卒業論文の進め方	II	論文作成：その1			
	第2回		論文作成：その1		論文作成：その2			
	第3回		論文作成：その2		論文作成：その3			
	第4回		論文作成：その3		論文作成：その4			
	第5回		論文作成：その4		論文作成：その5			
	第6回		論文作成：その5		論文作成：その6			
	第7回		論文作成：その6		論文作成：その7			
	第8回		論文作成：その7		論文作成：その8			
	第9回		論文作成：その8		論文作成：その9			
	第10回		論文作成：その9		論文作成：その10			
	第11回		論文作成：その10		論文作成：その11			
	第12回		論文作成：その11		論文作成：その12			
	第13回		論文作成：その12		論文作成：その13			
	第14回		論文作成：その13		論文作成：その14			
	第15回		論文作成：まとめ		論文作成：まとめ			
授業外学習(予習・復習)								
成績評価の方法	I：中間報告100% II：卒業論文75%、口頭発表25%							

授業科目	比較文化		担当者	小林朋子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異なる他者との社会も私たちの日常にある。本講義では、そうした他者とのような「関係性＝コミュニケーション」を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義を通じて外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年） (2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）							
授業スケジュール	第1回		異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か					
	第2回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味					
	第3回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し					
	第4回		空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間					
	第5回		「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界					
	第6回		女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー					
	第7回		異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと					
	第8回		異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか					
	第9回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史					
	第10回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？					
	第11回		異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応					
	第12回		異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ—自分のことば、他者のことば					
	第13回		異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは					
	第14回		異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践					
	第15回		異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）							
実務経験について	なし							

(注) 英語英文学専攻は1年選択（教職必修）、日本語日本文学専攻は2年選択

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18～20世紀の「小説」の流れを概観する</p> <p>【概要】この授業は受け身の授業ではありません。学生間のディスカッションによって発信する能力と問題解決能力を養います。最初に、テキストを用いてグループ内で情報交換しながら各章で取り上げる作家と作品について共有します。次に、担当者が課した各章の問題に対してグループ内でディスカッションしてもらい、その後、検討内容を発表してもらいます。他の学生の見解や思考を共有しながら、担当者の解説（一つの考え方）を聞いて問題点の理解に努めます。</p> <p>【到達目標】18世紀及び19世紀初頭の小説の特徴、19世紀の小説（ピクトリア朝小説）の特徴、20世紀前半の小説の特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（講義方式の説明）、「小説の誕生、そして成長」に関わる作者と作品の共有</p> <p>第2回 18世紀の小説（1）：小説の誕生とその周辺に関する諸問題（J.バニヤン、D.デフォー、J.スウィフト、S.リチャードソン）</p> <p>第3回 18世紀の小説（2）：小説の確立におけるH.フィールディング、L.スターン、T.G.スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説（3）：18世紀後半のゴシック小説（H.ウォルポール、A.ラドクリフ夫人）</p> <p>第5回 19世紀初頭の小説：小説の成熟に貢献したJ.オースティン</p> <p>第6回 「ヴィクトリア朝の小説」に関わる作者と作品の共有、19世紀ヴィクトリア朝の小説（1）：C.ディケンズの役割</p> <p>第7回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（2）：C.ディケンズの評価</p> <p>第8回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（3）：ブロンテ姉妹（シャーロット、エミリー、アン）の小説</p> <p>第9回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（4）：W.M.サッカレーの小説『虚栄の市』、E.ブロンテの小説『嵐が丘』</p> <p>第10回 19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T.ハーディ）、ダーウィニズムの影響</p> <p>第11回 「第二次世界大戦までの小説」に関わる作者と作品の共有、20世紀の小説（1）：D.H.ロレンスの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説（2）：D.H.ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説（3）：V.ウルフの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説（4）：H.G.ウェルズの小説</p> <p>第15回 20世紀の小説（5）：H.ジェイムズの小説、E.M.フォスターの小説、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適時指示			
成績評価の方法	授業への取り組み+学習単元ごとのまとめ(70%)、筆記試験(30%)			
実務経験について	なし			

(注) 日本語日本文学専攻は選択、英語英文学専攻は必修

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の技量を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では作品についてのディスカッションの時間を設け理解を深める。</p> <p>*授業には必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカン・ピューリタン文学と理性の文学(1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカン・ピューリタン文学と理性の文学(2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出發—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学(1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学(2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)			

(注) 日本語日本文学専攻は選択、英語英文学専攻は必修

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第2回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第3回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第4回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第5回 読書教育の方法1：就学前・学校全体</p> <p>第6回 読書教育の方法2：教科と読書教育</p> <p>第7回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第8回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第10回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第11回 読書活動1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第12回 読書活動2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第13回 読書活動3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>			
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようになる。			
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第14回、15回での実演 (50%)			
実務経験について	なし			

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第2回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第3回 学校教育と情報メディア</p> <p>第4回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第5回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第6回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第7回 情報メディアの活用1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第8回 教育メディアの活用2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第9回 情報メディアの活用3：データベースと情報検索</p> <p>第10回 情報メディアの活用4：インターネットと情報検索</p> <p>第11回 情報メディアの活用5：インターネットによる情報発信</p> <p>第12回 情報セキュリティ</p> <p>第13回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第14回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第15回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。			
成績評価の方法	授業での課題 (30%)、期末試験 (70%)			
実務経験について	高等学校、高等専門学校に教員として勤務			

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	書道Ⅰ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択(注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】 書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。</p> <p>【到達目標】 楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第 1回 書について(書体の特徴とその変遷) 第 2回 楷書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第 3回 " " 第 4回 " " 第 5回 " (細字の書き方) 第 6回 " " 第 7回 行書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第 8回 " " 第 9回 " " 第 10回 " (細字の書き方) 第 11回 " " 第 12回 かなの特徴と書き方(いろは単体) 第 13回 " " 第 14回 " (連綿とその応用) 第 15回 " "		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択(注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における書写教育の把握と楷書・行書の古典学習</p> <p>【概要】 中学校の書写教育の現況を通覧するとともに教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得する。さらに、書の基本である楷書の古典を通して、その造型と運筆の要領を学ぶ。また、日常生活において最も多用されている行書の巧みな筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】 中学校における書写教育の概要を簡単に説明できること。さらに楷書・行書の特徴とその運筆の技法を古典を通して取得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第 1回 中学校における書写教育について 第 2回 中学校で学ぶ楷書の基本とその応用 第 3回 " " 第 4回 楷書の古典(九成宮醜泉銘) 第 5回 " " 第 6回 " (始平公造像記) 第 7回 " (孫秋生造像記) 第 8回 中学校で学ぶ行書の基本とその応用 第 9回 " " 第 10回 中学校で学ぶ漢字と仮名の調和 第 11回 行書の古典(蘭亭叙) 第 12回 " " 第 13回 " (苕溪詩卷) 第 14回 " (呉昌碩詩稿) 第 15回 " (風信帖)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後に対応
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の特徴とその運筆の技法</p> <p>【概要】書道Ⅲでは草書・隸書・篆書の3つの書体について学習する。草書は日常生活においてはほとんど目にする文字ではないが、芸術性が高く、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。隸書は今から1800年位前に生まれた書体であるが、日常よく目にする文字である。隸書は独特な技法と造型のおもしろさを理解してもらう。篆書は中国最古の文字であり、その典型とされる小篆のユニークな字形や運筆の技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】草書・隸書・篆書のくつまゝ特徴とその運筆の技法を古典を通して習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 草書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第2回 草書の古典(書譜) 第3回 " " 第4回 " (擬山園帖) 第5回 " " 第6回 隸書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第7回 隸書の古典(曹全碑) 第8回 " " 第9回 " (礼器碑) 第10回 " " 第11回 篆書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第12回 篆書の古典(泰山刻石) 第13回 " " 第14回 " (趙之謙篆書対聯) 第15回 " "		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		

授業科目	書道Ⅳ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後に対応
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習</p> <p>【概要】書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず、自分の名を刻した印を制作し、漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな(古筆)の臨書学習を通して、その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいかに大切な文字であるか、実感してもらうのも目的の一つである。</p> <p>【到達目標】漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 作品制作(篆刻—自用印) 第2回 " " 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " (漢字作品—4字熟語) 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " (調和体作品) 第9回 " " 第10回 かなの古典(高野切第1種) 第11回 " " 第12回 " (高野切第3種) 第13回 " " 第14回 " (寸松庵色紙) 第15回 " "		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		